

最終処分場増設を計画

伊賀の三重中央開発 住民説明会、20人出席

【伊賀】伊賀市予野の廃棄物処理会社「三重中央開発」（金子文雄社長）は六日、同社が増設を計画する最終処分場の環境影響評価準備書に関する説明会を、同市予野の多目的ホールで開き、住民約二十人が出席した。同社は十三日にも、同所で説明会を開く。

「環境への影響、基準値以下」

同社は説明会で悪臭や水質、生態系など、増設に伴う環境への影響について調査した項目は、条例で定められた基準値以下だと報告。井上吉一専務は「いくらかサイクルを進めても、まだまだ最終処分場に頼らざるを得ない」と述べ、増設の必要性を強調した。

住民の一人は、「震度5以上が懸念される東海、東南海地震では、想定外の被害が出てくる。安全性はどの程度保証できるのか」と指摘。同社は平成十九年四月の県中部を震源とする地震でも大きな被害はなかったとし、理解を求めた。

別の住民は、車の通行時間や騒音について質問。同社は「夜間は全く乗り入れないわけではないが、通行の時間帯を分散させるなど対策したい」と答えた。

また、住民からは「本当の意味での共存を願いたい。十分な話し合いをしていきたい。守るべき生活環境は大きくなく、心の話だ」とする声も上がった。

同社によると、増設予定の最終処分場は敷地面積約十五万平方メートル。調整池や浸出液処理施設を設ける「管埋型」になるという。



住民を対象に開かれた最終処分場増設の説明会＝伊賀市予野で

以上の懸念される東海、東南海地震では、想定外の被害が出てくる。安全性はどの程度保証できるのか」と指摘。同社は平成十九年四月の県中部を震源とする地震でも大きな被害はなかったとし、理解を求めた。

別の住民は、車の通行時間や騒音について質問。同社は「夜間は全く乗り入れないわけではないが、通行の時間帯を分散させるなど